



殿祭の祝詞下。皇孫命朝乃御膳夕乃御膳仕奉流。此  
礼懸伴緒襷懸伴緒手手躰足躰不令為氏云々。とこ  
えらる手足の躰はらむことをつゝし免るなり。○  
供御雜物手結饗天雜物はゐの二種此餘も雜の  
物或供備へなり。結饗ハ其御飲食の器を置て奉ふ  
御机字。結正饗多ふなり。机といふはしりて然き後世  
の結机と云ふ物此遺製なるべし。此器内外宮の儀  
式帳にも見えて。主と勅使齊王の料とに。外宮子良  
祭奠式も。結机以黒木造之。以檜木葉結付机面及足  
也。上古之制失之。近世考古記再興之。仁治元年内宮

假殿記。勅使冬宮云々。勅使結机已下差机也。江家  
次第伊勢公卿勅使條に。使着直會殿兼居使以下酒  
肴結黒木為机作小宮盛菓子肴物注し以檜木葉付  
机等脚編葉敷面など云々。以檜木云々。この本文  
に見真木葉云々と有に合へり源氏物語などに。む  
かむ机と云々。とるゝさ終り。古製なるをさきふれ  
るひ合はる。書紀保食神。段。夫。高。物。悉。備。之。百  
而云々。ふと。乘輿從御猶還御入坐時公為供奉乘  
輿。漢國にて王を崇免て云ふ称なり。此の文此中  
不用ひきるハ片成なし。ス。メ。ヲ。三。コ。ト。と。云。て。何

を倍し。如此以きす。大御饗を設て。天皇の御獨  
り。行宮に還御入生。待受奉りて。供獻らむと

を致し

此時勅久誰造所進物。問給。於時。大后奏。此者磐鹿六獨命  
命所獻之物也。即歡給。比譽賜。天勅久。此者磐鹿六獨命  
獨我心耳。波非矣。斯天生神。乃行賜。倍物也。大倭國者以  
行事。負名國。神磐鹿六獨命。朕我王子等。命阿礼子孫  
乃八十連屬。爾遠久長久。天皇我天津御食。齋忌取持  
天仕奉。止負賜。天則若湯生連等。始祖物部意富賣布連  
乃佩大力。手令脱置。天副賜。支。

此時勅久云々。この文此上。天皇の還幸乃し。そ  
の献まる御饗物をきこし。免き象由す云々。そ

此時といひて。於此於ら然と通ゆる。古文此體  
なり。○即歡給。比譽賜。天勅久。即ち須奈波知とむむ

し。但し假字の例古書に見あはらば。上の大  
后奏云々。所獻之物也。即云々。字意を續きてむむ

し。さて此言のほりひさ。古書よみえ。さす。下ら。  
事狀よりくとり。くもき。さ。ゆ。ま。ど。大し。條の意

を。上の事に因り。速。下。此事にれ。む。勢の時  
心。ふ。か。さ。言なり。○此者磐鹿六獨命。獨我心耳

波非矣。天生神乃行賜倍留物也。天皇太后此詔六  
獨を命ついでとも曰いふも。親おしの崇たかめる趣まの文  
なり。下くだりしてさて我字の下、字缺一二字、まり空  
なり。本書蠹食なりと在しるべし。下文、如是依賜  
事波朕我獨心耳非矣。是天生神乃命叙ついでと詔さすを  
おもひ奉るふ。決つく心耳此二字此脱とるなり。願ねがふ  
事著々禮を訂つ補おひ。此者磐鹿六獨命獨我心耳  
波非矣。と訂正つなり。天皇この獻物を心こく賞あんん  
さめひ。褒美ほめをさひ。此七六獨命獨心耳は非也。  
天上あめに生在皇神みかどを去の御慮みもて。行ハせをさへる

このぞと思ひしをさる由なり。○大倭國者以行事  
負名國奈利。行ふとも事波擬なむなむを以ふ。皇大御  
國くにもその行ふ職業しごなり。名も負おする國なりとる  
ゆ。さてその名といふ由ハ。鈴屋大人此説いハ。上代ハ  
名といふハ。も其其人の阿あむむ狀かたちもて負おするも  
のよて。名を呼よぶは尊たかみなり。古ハ氏々の職業しご  
各定さりて。世々相繼つて供奉まつりつ神は。其職業しごハ  
ハ其家此名なる故也。即その職業しごを指さして名と  
云いふなり。さて其もその家ハ世々傳つハる故也。其名  
即すなはち姓な此ことし。さきむ名堂な云いふは職しごにて。次つぎ

加任治塩に、む天國云ど、な詔以萬と語日月、加倭  
羅那、の乘崇と皇の、より、へ中國も本興多、国  
國、國、津神おの、風國、こ、校の、其傳乃、福利者。  
王朝、多、彦、天、も、御、と、なり、事、を、來、倭、寺、繼、皇、  
の、貢、命、皇、ふ、世、を、り、を、ら、諭、詔、を、く、礼、國、僧、伊、神、  
子、の、し、を、の、人、此、異、と、畫、の、語、へ、知、天、雷、波、等、比、能、  
都、事、將、御、も、頃、も、詔、さ、事、あ、し、上、傳、言、天、都、伊、  
怒、見、見、軍、世、何、ハ、て、等、だ、な、こ、免、も、來、玉、皇、賀、都、  
我、玩、え、や、任、る、以、云、ふ、か、本、我、の、世、生、事、乃、の、比、久、  
阿、書、化、國、々、他、國、國、は、り、ま、世、御、皇、皇、万、國、計、志、  
斯、乘、仁、同、國、の、清、姓、北、事、と、へ、天、論、傳、り、天、も、な、語、賀、紀、能、  
歸、天、御、世、鎮、奏、を、録、ハ、詔、を、皇、ひ、來、降、し、と、見、流、建、嘉、吉、  
四、他、皇、の、身、を、と、め、吉、知、有、大、の、皇、大、系、ま、北、と、す、り、と、礼、長、二、布、  
仕、二、六、と、に、田、倉、さ、り、り、ハ、國、何、古、そ、ふ、天、る、留、歌、年、國、  
奉、年、十、に、五、年、遣、り、の、譜、々、北、他、者、を、語、と、時、下、な、神、ぬ、三、等、  
三、富、も、し、て、譜、々、北、他、者、を、語、と、時、下、な、神、ぬ、三、等、

言者者、天地皇詔命の國をとふ○姓ハ  
奉事神下、孫壽洲此二、指、る、大、云、こ、古、  
不靈柄詔此見、曰、奉、禮、乃、つ、一、古、倭、と、此、  
為之跡、ハ、萬、え、葦、賜、葦、天、乃、て、語、事、國、と、し、毛、  
國、所、言、る、國、を、原、比、原、津、り、他、詔、も、あ、以、あ、古、氏、  
云、佐、舉、此、系、千、底、乃、高、大、國、ひ、天、理、行、る、も、と、  
國、不、中、こ、五、と、瑞、御、殿、も、と、上、其、事、條、古、以、  
海、叙、為、事、も、ま、百、云、總、産、祭、對、る、も、毛、負、の、事、記、  
を、云、國、と、秋、ハ、之、尔、祝、ハ、神、生、大、名、傳、記、に、  
神、云、万、り、て、之、る、國、天、詞、ハ、語、古、御、國、奈、委、恭、と、  
代、万、葉、別、天、瑞、ハ、年、津、に、云、皇、國、の、利、辨、段、  
欲、唯、を、集、て、上、總、神、安、日、皇、ハ、云、神、の、事、と、ら、  
理、葦、の、北、此、ハ、國、代、國、嗣、我、詔、傳、を、事、を、詔、  
云、原、友、長、大、ハ、是、紀、止、年、宇、古、ハ、古、の、夫、等、  
傳、冰、歌、歌、御、ハ、吾、詔、平、子、都、語、た、の、夫、等、  
介、總、ハ、國、天、子、天、氣、歎、乃、御、云、と、大、と、大、と、  
良、國、志、靖、を、照、孫、照、久、乃、御、云、と、大、と、大、と、  
久、者、貴、嶋、指、大、可、大、所、長、子、傳、御、と、古、む、名、  
虛、神、嶋、倭、ハ、神、王、神、知、秋、皇、堂、國、と、古、む、名、  
見、在、海、之、て、御、之、北、食、尔、孫、詔、大、此、言、  
津、隨、國、國、蘇、の、地、敷、止、大、之、と、御、事、奉、編、り、



久所知食天。天都日嗣乃天津高御座仁御坐天天都  
御膳遠長御膳乃遠御膳止千秋乃五百秋仁瑞穂遠  
平介久由庭仁所知食止事依志奉天天降坐之後云  
。式の大嘗祭祝詞。天津御食乃長御食能遠御食  
登皇御孫命乃大嘗聞食年於見えざる故實字也  
て詔尋るなり。齋忌は伊波比由麻波理ととむし。  
汗穢事な字を忌避て。と詠川字慎むを云ふ。な水此  
言のまゝ。下の伊波比由麻々閉の下に論ふ。取  
持とえ。件、の壽詞の下文に。如此依奉志任仁所知聞食。  
由庭乃瑞穂遠云々。本末不願茂槍乃中執持立奉仕

留中臣云々。祝詞式伊勢齋内親王奉入時の祝詞也。  
御杖代止進給布御命乎。大中臣茂樺中取持立恐美。  
母申給久止申など見えざる是にて。高天原にて皇  
祖神の依し賜へる天津御食を。御中取持て。大御膳  
の職業に仕奉まじと負せざるなり。きて上に大  
倭國者以行事負名國奈利と詔ひて。りく云々仕奉  
止負賜天也詔へる。次は古膳臣と名字負せ賜  
へ給ふて。下に纏向朝廷歲次癸亥。五十三。始奉貴詔  
勅所賜膳臣姓。天都御食乎伊波比由麻波理天仕奉  
来と云へる。當里。但し此條の本文に膳臣と名を  
四十三





又此行事者。大伴立雙天應仕奉物止。在此勅天日暨日  
横陰面背面乃諸國人手割移天。大伴部止號天賜於磐  
鹿六猶命。

此行事とも。其ふは。大膳夫の行ふ職業なり。○大伴  
立雙天云々。膳夫此多くの伴或率て仕奉る者  
と為る。其在まじ勅へ家形。備下文に。諸友諸人等  
趣此勅の。○日暨日横陰面背面乃諸國人手割移天。  
日暨日横陰面背面は。東南西北の四面此名を。和  
らう。稱する古語なり。其万葉集一巻作藤原宮  
御井歌。八隅知之。和期大王高照日之皇子。鹿妙乃。

藤井原。大御門。詔賜而。持統天皇八年十二月。清見  
原宮作。遷幸するを云ふ。此藤井原を後  
小藤原と改む。石へるなり。此歌の題詞も。藤原と  
書。埴安乃。堤上。在立之。見之。賜者。故大香山の  
日本乃。青香山者。日經乃。大御門。春山跡之。美佐備  
立有畝。大乃。此美豆山者。埴安池の堤上。畝大の此  
三づ山と。きして云へる。其日緯能。大御  
堤を畝。大山。近きと。ろときこえり。日緯能。大御  
門。弥豆山跡。山佐備伊座耳為之。青菅山者。背友乃。  
大御門。宜名倍。神佐備立有名。細吉野山者。影友乃。  
大御門。從雲井。爾曾遠久有家。雷云々。と。三えと。里今  
その大和の國。圖。ま。り。了。國人。質問。し。その方

